

## 藤本 光治 (ふじもと みつじ)

### ■ 略歴

- 1985年 日本歯科学院専門学校卒業
- 1994年 (医) 健志会 ミナミ歯科クリニック
- 2000年 大阪セラミックトレーニングセンター非常勤講師
- 2004年 (有) デンタル・クリエーション・アート
- 2006年 (医) 健志会 ミナミ歯科クリニック主任歯科技工士
- 2007年 新大阪歯科技工士専門学校専攻科非常勤講師
- 2008年 大阪 SJCD 臨床テクニシャンコース講師 (現コースディレクター)

### ■ 所属

- ・大阪府歯科技工士会会員
- ・日本臨床歯科学会大阪支部 (大阪 SJCD) 理事
- ・日本顎咬合学会指導歯科技工士
- ・日本歯科審美学会会員
- ・日本歯科技工学会会員

メインテーマ： 『 補綴修復治療における歯科技工士の役割 』

～ デジタル時代だからこそ必要な技術・知識 ～

### 第3回

### *The COLLABORATION*

～ 複雑なケースにおける診断用ワックスアップの

具備すべき要件と組み立て方 ～

### ■ 抄録

補綴治療を成功に導く上で歯科技工士にとっても不可欠なことは、治療ゴールのイメージを歯科医師と共有することです。我々、歯科技工士は補綴チームの一員として審美的調和のみならず機能的調和・生物学的調和をトータルで達成すべく技術的研鑽と知識の修得につとめ補綴治療の成功に貢献しなければなりません。

その中でも特に咬合再構成を含む多数歯補綴や複雑な補綴のマネージメントにおいて歯科医師がおこなう審査・診断へのテクニシャンのかかわり方が非常に重要となります。

ラボサイドに診断用ワックスアップのオーダーが来た場合、その目的は歯科医師が治療ゴールのイメージをより明確にできるものを提供することです。

多数歯補綴や複雑な補綴のマネージメントにおいてラボサイドに診断用ワックスアップのオーダーが来た場合、経験の少ないテクニシャンにとっては何から手をつけて良いのか？ 歯科医師とどう連携すればよいか？

その診断用ワックスアップで歯科医師が治療ゴールのイメージを明確に出来るのか？

など悩まれる事もあるかと思えます。

今回は 多数歯補綴を中心に補綴修復治療を成功させる為の臨床的基準と何故そのような状態に至ったのか？を考え分析するところから歯科医師とのコミュニケーションにおける必須項目、治療ゴールのイメージを具現化していく過程を整理立て症例と共に臨床体感していただき皆様の補綴臨床の一助となれば幸いに思います。